

事業所名

でいさーびす あいりんご1.5

支援プログラム (参考様式)

作成日

R8

年

1

月

31

日

法人(事業所) 理念		<p>「楽しい・安心できる・使命感」をテーマに重点を置いています。  まず、楽しい気持ちを持つためには、同じ目線に立って自分も一緒に楽しむ。  次に安心できる気持ちを持つためには、もしも相手が自分の家族や友達だったらと思って接することです。  最後に使命感は、“自分だから” “自分しかできない” という気持ちをもって行動する。</p>			
支援方針		<p>子どもを変えることや行動を修正することを目的とせず、安心して過ごせる経験の積み重ねを通して、自然な発達を支えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安心感を最優先とした支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての場所や人に不安を感じやすい特性を理解した関わり ・泣く、拒否する、固まるなどの反応を否定しない ・大人が落ち着いて関わり、情緒の安定を支える</li> </ul> </li> <li>2. その子の「今」に寄り添う支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達年齢や診断名にとらわれない個別性の高い支援 ・日による気分や体調の変化を前提とした柔軟な対応 ・できることを無理に増やさず、安心できる時間を優先</li> </ul> </li> <li>3. 遊びを中心とした支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通して育つ力を大切にする ・課題や訓練を前面に出さない活動構成 ・子どもの興味・関心を起点とした関わり</li> </ul> </li> <li>4. 関係性を育てる支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一対一の関係づくりを基本とする ・無理な集団参加を求めず、段階的に関わりを広げる ・大人との信頼関係を土台に、他者との関係へつなげる</li> </ul> </li> </ol> <p>子どもの発達や行動を一律に促すのではなく、「安心して過ごす経験」を積み重ねることを支援の中心としています。活動はすべて選択制・自由参加とし、その日の体調や気持ち、発達段階に応じて柔軟に対応します。</p>			
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<p>・来所時の表情や様子から体調・情緒の状態を丁寧に把握 ・不安が強い子どもには静養や一対一の関わりを優先 ・着脱、手洗い、排泄、食事準備など日常生活動作への見守りと必要最小限の援助 ・「できない」ことを指摘せず、取り組もうとした姿勢を肯定 ・生活動作を遊びやごっこの中に取り入れ、自然に経験できる工夫 ・疲れやすい子どもへの十分な休息時間の確保 ・何もせず過ごす時間も支援として尊重</p>			
	運動・感覚	<p>・粗大運動(マット、平均台、トランポリン、ボール等)による身体感覚の育ちを支援 ・指先を使った遊びや制作による微細運動の経験 ・砂、水、泡、粘土、スライム等の感触遊び ・音・光・匂いなど感覚刺激への配慮と環境調整 ・感覚過敏のある子どもには刺激を減らした関わり ・運動や感覚遊びが苦手な子どもには見学や部分参加を保障 ・お絵描き、工作、音遊びなど自由な表現活動 ・完成度よりも過程を大切にした関わり ・表現すること自体を楽しめる環境づくり</p>			
	認知・行動	<p>・型はめ、積み木、パズル、簡単なルール遊び ・繰り返し遊びを通じた安心感と予測性の形成 ・視覚的なスケジュールや写真カードを用いた見通し支援 ・切り替えが難しい場面では十分な移行時間を確保 ・問題行動として捉えず、背景にある気持ちを理解する関わり</p>			

言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発語の有無に関わらず、伝えようとする姿勢を尊重</li> <li>・ジェスチャー、指差し、絵カード、写真、文字など多様な表現手段の活用</li> <li>・大人が子どもの表現を受け止め、言葉を添える関わり</li> <li>・一対一でのやりとりを基本とし、安心できる関係を築く</li> <li>・集団での発表や挨拶を強制しない</li> <li>・一人遊び、並行遊びを十分に保障</li> <li>・大人との安定した関係を基盤とした他者理解</li> <li>・少人数での関わりを通したやりとりの経験</li> <li>・順番待ちや簡単なルールを遊びの中で体験</li> <li>・トラブル時は叱責せず、気持ちの整理を丁寧に支援</li> </ul>		
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人遊び、並行遊びを十分に保障</li> <li>・大人との安定した関係を基盤とした他者理解</li> <li>・少人数での関わりを通したやりとりの経験</li> <li>・順番待ちや簡単なルールを遊びの中で体験</li> <li>・トラブル時は叱責せず、気持ちの整理を丁寧に支援</li> </ul>		
家族支援	<p>子どもの発達支援は家庭支援と切り離せないものと考え、保護者が安心して子育てに向き合えるよう、継続的かつ丁寧な家族支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な相談対応（送迎時のやりとり、電話、面談等）</li> <li>・子どもの様子や小さな変化を具体的に伝え、肯定的な視点で共有</li> <li>・発達や特性に対する理解を深めるための説明と情報提供</li> <li>・育児に対する不安、迷い、孤立感への心理的サポート</li> <li>・家庭での関わり方や声かけについての助言</li> <li>・「できていないこと」ではなく「今できていること」に目を向ける視点の共有</li> <li>・保護者の気持ちや考えを尊重し、無理な提案は行わない</li> <li>・兄弟姉妹への影響や家庭全体の負担にも配慮した支援</li> </ul>	移行支援	<p>子どもが次の環境へ移る際、不安を最小限に抑え、安心して新しい生活を始められるよう支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、幼稚園、認定こども園への移行に向けた準備支援</li> <li>・就学に向けた不安や心配事の整理とサポート</li> <li>・集団生活への不安に配慮した段階的な関わり</li> <li>・新しい環境をイメージしやすくするための声かけや視覚的支援</li> <li>・保護者と連携した進路選択の支援</li> <li>・関係機関との情報共有によるスムーズな移行</li> <li>・移行後も必要に応じたフォローと相談対応</li> </ul>
地域支援・地域連携	<p>地域の中で子どもと家庭が安心して暮らしていけるよう、関係機関との連携を重視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員との連携による支援の方向性共有</li> <li>・医療機関、保健センター、子育て支援機関との情報共有</li> <li>・保育所、幼稚園等との連携</li> <li>・地域資源を活用した体験や外出活動</li> <li>・地域の中で子どもを支える意識づくりへの協力</li> <li>・切れ目のない支援体制の構築</li> </ul>	職員の質の向上	<p>子どもが安心して過ごせる支援を提供するため、職員一人ひとりの学びと成長を大切にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援、感覚特性、不登校・行き渋りに関する研修への参加</li> <li>・日々の支援を振り返るミーティングの実施</li> <li>・事例検討を通した支援力の向上</li> <li>・職員同士が相談し合える風通しの良い職場環境づくり</li> <li>・支援の属人化を防ぐチーム支援体制</li> <li>・職員自身の心身の健康に配慮した働きやすい環境づくり</li> </ul>
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初詣・節分・運動会・遠足・クリスマス会・全事業所合同活動など</li> </ul>		